本時版「ICT を活用したまなび」授業実践

教科	算数	学年	4年
単元名 (教材名)	折れ線グラフと表（日本文教出版4年上）	時	第 13 時（全14時間）
本時の 目標	二つのデータを比べて、判断したことを考察し、自分の考えを伝えるのに適切なグラフにつくりかえて考察を深めることができる。		

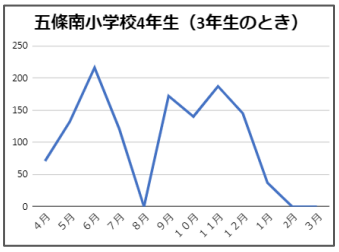
	学習活動	ICT 活用
1	○前時の学習内容を確認する。 ⇒単元を通して『読書レベルアッププロジェクト』に取り組んでおり、前回、「文字が多い物語のような本をたくさん読む必要がある」という結論を出したことを確認する。	1【大型提示装置】 前時にどのような結論を出したかを確認するために、前時に作成した棒グラフを大型提示装置に映す。
2	○本時の問題を設定する。 ⇒前時の結論を受けて数人の児童から「読書の量も増やす必要がある」という意見があったため、本時は「読書量を増やすためにどうすればよいのか」という問題を設定する。	
3	○計画を立てる。 ⇒前時と同じように、他校のデータと自分たちの学校のデータを比べることで、問題を解決していくという見通しをもつ。	3【学習者用端末】 あらかじめ準備していたスプレッドシートで作成した図書室の月別貸出冊数のデータを、Classroom にて児童と共有する。 一つのファイルをクラスで共有しつつ、個人解決の場面では、自分の出席番号のシートを編集するように指示する。
4	○必要なデータを確認する。 ⇒教師が準備した二つの学校の図書室の月別貸出冊数のデータをスプレッドシートで確認する。	
5	○データを分析する。 ⇒スプレッドシートで二つの表から折れ線	5【学習者用端末】 スプレッドシートを用いることで、表から折れ線グラフを作成したり、複数の折れ線グラフを一つにまとめたりすることが簡単にできる。また、折れ線グラフを一つにまとめる作業の中で、折れ線グラフの縦軸の数値が変われば、見え方も変わることに気付くことができる。

	グラフを作成して比べる。また、二つの折れ線グラフを一つにまとめて、グラフから分かることを事実と考えに分けてワークシートに書く。 ・ペアで考えを共有する。 ⇒考察したことの内容はグラフのどの部分から分かったのか、ペアの友達に自分の考えを伝える。 ・全体で考えを共有する。 ⇒考察したことの内容はグラフのどの部分から分かったのか、クラス全体に自分の考えを伝える。	5【学習者用端末】 自分の考えを伝える場面では、作成した端末上の折れ線グラフを指しながら説明することで、より分かりやすく伝えることができる。 5【大型提示装置】 発表する児童の折れ線グラフを大型提示装置に映す。 6【学習者用端末】 ロイロノートに自分の結論を書き、提出ボックスに提出することで、クラス全体で考えを共有することができる。
6	○結論を出す。 ⇒分析したことを基に、読書量を増やすためにできることを個人で考え、クラス全体で共有する。	6【大型提示装置】 ロイロノートにそれぞれの結論を書き、共有画面を大型提示装置に映す。

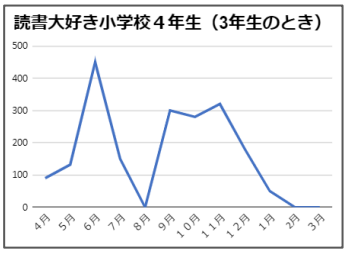
備　考

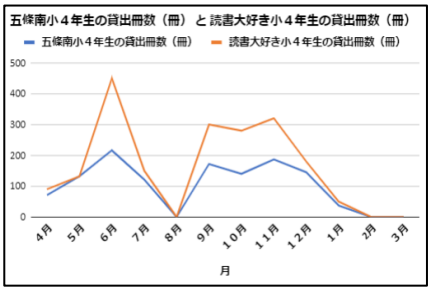
月別貸出冊数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
五條南小４年生の貸出冊数（冊）	71	132	216	121	0	172	140	187	145	37	0	0
読書大好き小４年生の貸出冊数（冊）	90	132	450	150	0	300	280	320	180	50	0	0



＋





※Google スプレッドシートによるグラフの作成

今回の授業でのICT活用のポイント

①大型提示装置と端末を使い分け、注目させたいポイントを焦点化して提示する。（随時）
②折れ線グラフの作成…多量なデータでも、目的に応じてグラフを一瞬で簡単に作成できる。
③折れ線グラフの分析…目的に応じて、自分の主張を適切に表すグラフにつくり変えることができる。
④一つのファイルを共有して学習を進めるため、友達の考えを参考にし、話合いの時にすぐ見合うことができるので対話的な学びが充実する。

原案作成【 五條市立五條南小学校 】